

# VII 報 文

## 道路近傍における浮遊粉じん等の実態について（第5報）

高橋 浩 藤島 直司  
齋藤 学 小玉 幹生

### 1 はじめに

近年、東北・北海道の都市部を中心に、スパイクタイヤによる道路の摩耗から生ずる浮遊粉じん等が、生活環境の悪化を招くものとして社会問題となっている。

本県でも、昭和58年11月に「スパイクタイヤ使用自粛指導要綱」を制定し、使用自粛期間を定めるなどしてこの問題にとりくんでいる。

当センターでは、昭和57年度からその実態について調査してきたが、引き続き昭和61年度においても道路近傍における浮遊粉じん、浮遊粒子状物質濃度を調査した他、県民のスパイクタイヤに関する意識調査もあわせて実施したところである。

### 2 浮遊粉じん及び浮遊粒子状物質濃度調査

#### 2-1 調査方法

##### (1) 調査地点

調査地点は図-1及び図-2の合計4地点で、その概要は表-1のとおりである。

表-1 調査地点の概要

地点 No.	調査地点名		設置位置の状況			面する道路の状況			
	地点名	略称	設置面	道路端からの距離(m)	地上からの高さ(m)	路線名	車線数	舗装状況	交通量(台/24h)
1	土崎自動車排出ガス測定局	土崎	局舎上	2	2	県道新屋土崎線	2	アスファルト	28,110
2	茨島自動車排出ガス測定局	茨島	局舎上	5	2.5	国道7号線	2	アスファルト	30,330
3	環境技術センター	八橋(0m)	地上(芝生)	2	0	国道7号線	2	アスファルト	43,310
4	環境技術センター	八橋(25m)	地上(芝生)	25	0	—	—	—	—

(注) 交通量は昭和60年度道路交通センサスによる。

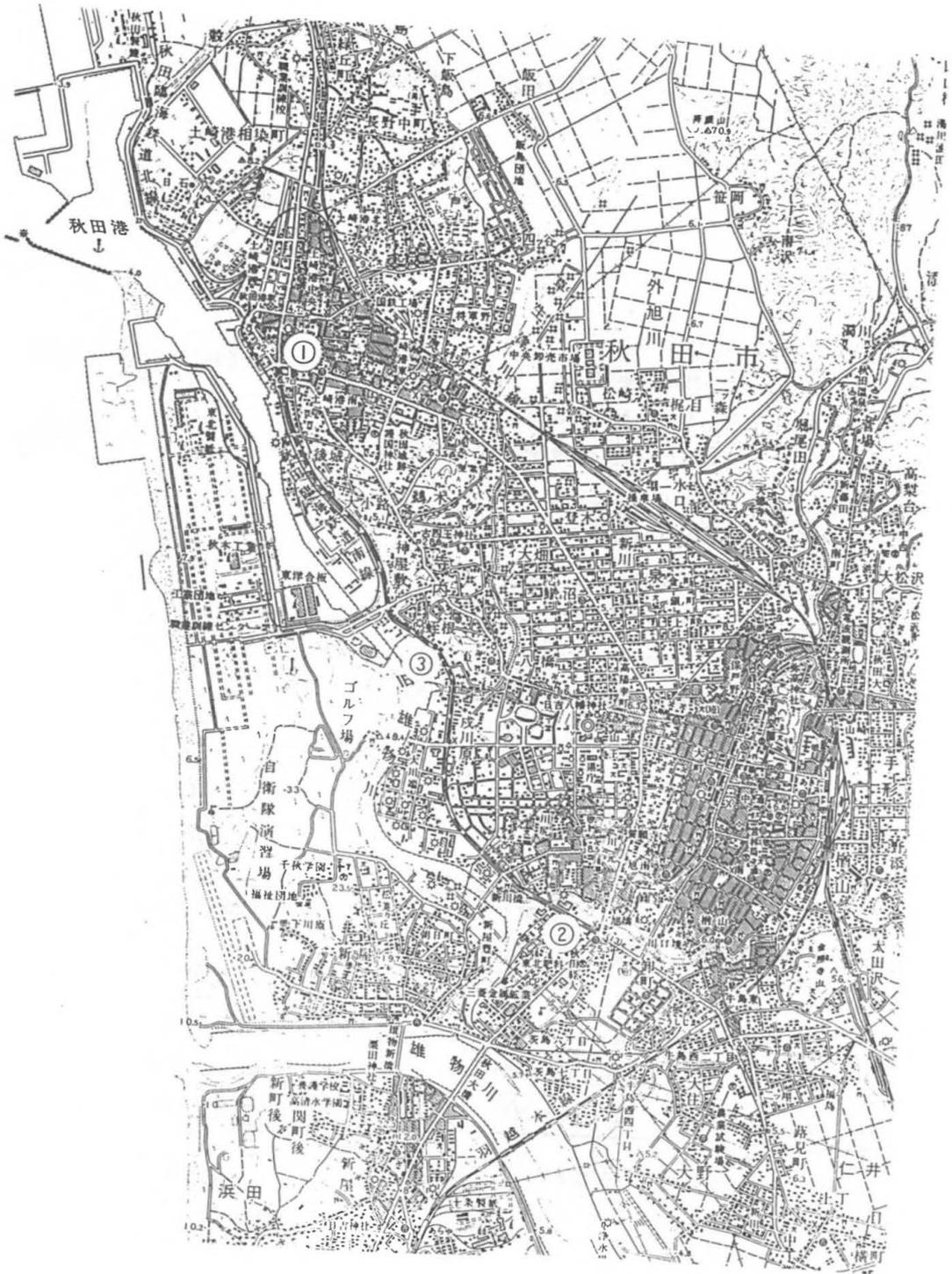


図-1 調査地点(1)

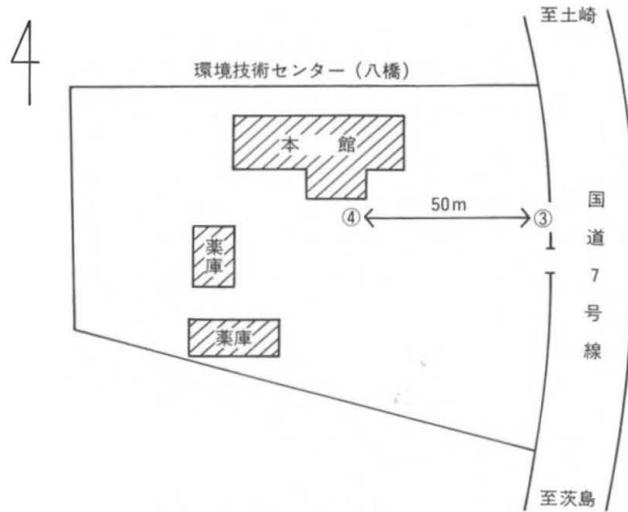


図-2 調査地点(2)

(2) 調査時期及び調査内容

調査時期は昭和61年10月、11月、12月、昭和62年1月、3月であり、調査内容は表-2のとおりである。

表-2 調査内容

調査項目	使用機器	分析項目
浮遊粉じん	ハイボリューム・エアサンプラー (ろ紙：石英繊維ろ紙2500QAST)	浮遊粉じん濃度
浮遊粒子状物質	ローボリューム・エアサンプラー (ろ紙：ハイボリューム・エアサンプラーと同じ)	浮遊粒子状物質濃度

2-2 調査結果及び考察

(1) 浮遊粉じん濃度の経月変化

各調査地点における浮遊粉じん濃度の経月変化は表-3及び図-3のとおりである。

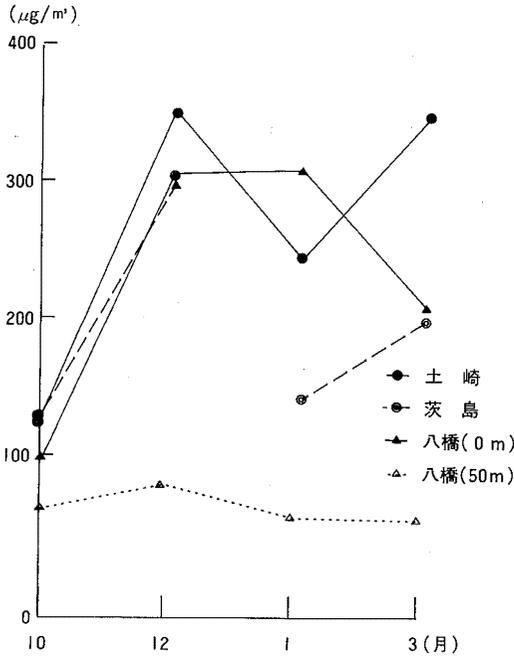
表-3 浮遊粉じん濃度の経月変化

年/月 地点名	60/10 <sup>1)</sup>	61/12	62/1	62/3
土崎	131 (102~176)	358(51~715)	258 (65~405)	362 (42~637)
茨島	128 (77~166)	305 (57~715)	154 (70~224)	213 (78~396)
八橋(0m)	104 (85~142)	312 (33~964)	320 (149~494)	219 (32~284)
八橋(50m)	57 (52~70)	86 (12~228)	70 (40~101)	71 (22~137)

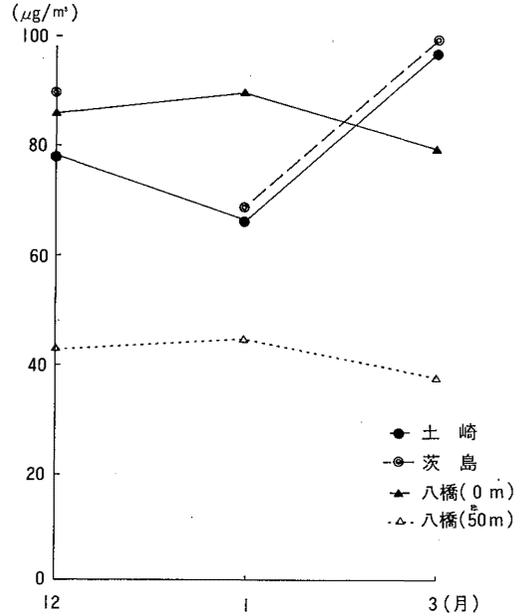
注1 単位は ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )

注2 ( )内は最低~最高値である。

注3 茨島は、62年1月から調査地点が約100m移動した。



図一三 浮遊粉じん濃度の経月変化



図一四 浮遊粒子状物質濃度の経月変化

61年度は冬期間の降雪量が例年より非常に少なく、例年路面が雪でおおわれる1月、2月に路面が露出する状態が続いた。そのため、図一三に示すように、例年大きく減少する1月の浮遊粉じん濃度が各地点ともそれほど減少せず、土崎及び八橋(0m)地点は12月、1月、3月の値がスパイクタイヤ非装着期である10月に比べて概ね2~3倍の濃度で推移した(茨島地点は62年1月から調査地点が国道7号線沿いに北西へ約100m移動した)。八橋(50m)地点は道路からの影響がほとんど見られず10月~3月ともそれほど変化がなかった。

(2) 浮遊粒子状物質濃度の経月変化

各調査地点における浮遊粒子状物質濃度の経月変化は表一四及び図一四のとおりである。

表一四 浮遊粒子状物質濃度の経月変化

地点名 \ 年/月	61/12	62/1	62/3
土崎	78	68	98
茨島	91	68	98
八橋(0m)	86	89	79
八橋(50m)	42	44	38

注1 単位は $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。

注2 ( )内は最低~最高値である。

注3 茨島は、62年1月から調査地点が約100m移動した。

10月に調査を行っていないので、スパイクタイヤ非装着期との比較はできない。しかし、12月、1月、3月については、浮遊粉じん濃度の場合と同様に1月に降雪量が少なかったために大きな経月変化は見られなかった。また、八橋(0m)地点の濃度は、道路からの影響がほとんどない八橋(50m)地点に比べて約2倍の濃度を示した。

### 3 スパイクタイヤに関する意識調査

県民のスパイクタイヤに関する意識の特徴を把握し、今後の調査研究の基礎資料とするために次の概要で意識調査を行った。

#### 3-1 調査機関

環境技術センター及び県内各保健所

#### 3-2 調査内容

表-5のとおり。

表-5 アンケート用紙

スパイクタイヤに関する意識調査	
問1 あなたは自動車を運転されますか。 1 運転する。 2 運転しない。 (問6へお進みください。)	2 雪がすっかり消えたとき。 3 毎年きまった時期にはずす。それは__月 (上 中 下) 旬頃である。 4 その他(具体的に )
問2 あなたが車を運転される目的はなんですか。次の中から主なものを2つまでお選びください。 1 通勤(学)のため。 2 仕事のため。 3 レジャーのため。 4 買物のため。 5 その他(具体的に )	問6 あなたは、冬から春にかけて道路がほこりっぽいと感じることがありますか。 1 多いに感じる。 2 感じる。 3 感じない。
問3 あなたが運転されている車の種類はなんですか。次の中から1つだけお選びください。なお、2台以上の車を運転される方は、主としてお使いの車をお答えください。 1 普通乗用車 2 小型貨物車 3 大型貨物車 4 バン・ワゴン 5 軽自動車 6 バス・マイクロバス 7 その他(具体的に )	問7 あなたは、県で決めた「スパイクタイヤ使用自粛指導致要綱」をご存じですか。 1 知っている。 2 知らない。
問4 あなたが運転している車に、冬の間スパイクタイヤをつけますか。 1 つける。 2 つけない。 いつ頃ですか。 理由 1 雪が降る天気予報が出たら、雪が降っていなくてもつける。 2 雪が1回でも降ったらつける。 3 根雪になってからつける。 4 毎年きまった時期がくると、雪がなくてもつける。それは__月(上 中 下)旬頃である。 5 その他(具体的に )	問8 あなたは、今後のスパイクタイヤの使用についてどのようにお考えですか。次の中からお選びください。 1 現状のままでよい。 2 なんらかの規制が必要である。 理由 理由 1 粉じん公害といっても特に問題があるとは思わないから。 2 スパイクタイヤは交通安全上必要だと思うから。 3 スパイクタイヤに強い道路をつくればよいから。 4 「スパイクタイヤ使用自粛指導致要綱」で十分対応できるから。 5 その他(具体的に )
問5 スパイクタイヤをつける場合、春になってスパイクタイヤをはずすのはいつ頃でしょうか。次の中から1つだけお選びください。 1 路面の凍結がなくなったとき。	ご協力いただきありがとうございます。最後にあなたのご住所(市町村名)、性別、年齢をお聞かせください。 ご住所(市町村名) ( ) 性別 ( 1男 2女 ) 年齢 ( 歳 )

### 3-3 調査期間

昭和61年12月1日～12月20日

### 3-4 調査方法

無作為に抽出して、原則として聞き取り調査を行った。

### 3-5 調査対象及び回答者数

調査対象は18歳以上の秋田県民で、回答者数は204名であり、その内訳は次のとおりである。

#### (1) 年齢層

20才代以下 82名  
30、40才代 95名  
50才代以上 27名

(詳細は図-5のとおり。)

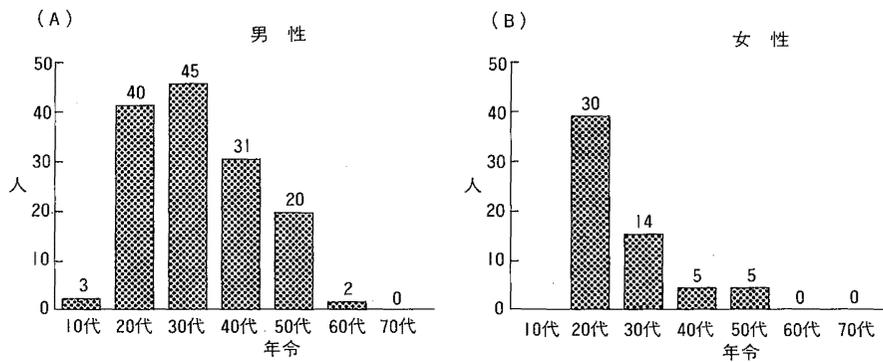


図-5 各性別の年齢層別内訳

#### (2) 性別

男性 141名  
女性 63名

#### (3) 地域別

海岸部 108名  
内陸部 96名

(注) 海岸部：能代市、男鹿市、秋田市、本荘市、山本郡、南秋田郡、河辺郡、由利郡

内陸部：鹿角市、大館市、大曲市、横手市、湯沢市、鹿角郡、北秋田郡、仙北郡、平鹿郡、雄勝郡

#### (4) 市部と郡部

市部 126名

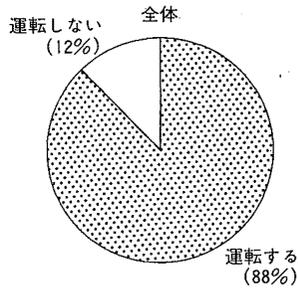
郡部 78名

(注) 市部：県内9市

郡部：県内町村

### 3-6 調査結果及び考察

問1 あなたは自動車を運転されますか。  
1 運転する。 2 運転しない。(→問6へお進みください。)



運転する 179名  
運転しない 25名

図-6 問1の結果

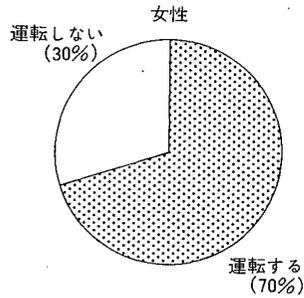
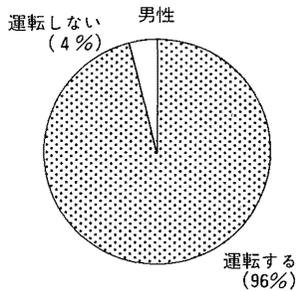


図-7 問1の結果(性別)

問2 あなたが車を運転される目的はなんですか。次の中から主なものを2つまでお選びください。  
1 通勤(学)のため。 2 仕事のため。  
3 レジャーのため。 4 買物のため。  
5 その他(具体的に )

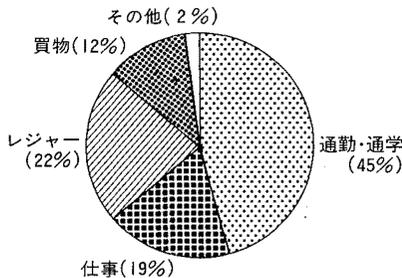


図-8 問2の結果

問3 あなたが運転されている車の種類はなんですか。次の中から1つだけお選びください。なお、2台以上の車を運転される方は、主としてお使いの車をお答えください。  
1 普通乗用車 2 小型貨物車 3 大型貨物車  
4 バン・ワゴン 5 軽自動車 6 バス・マイクロバス  
7 その他(具体的に )

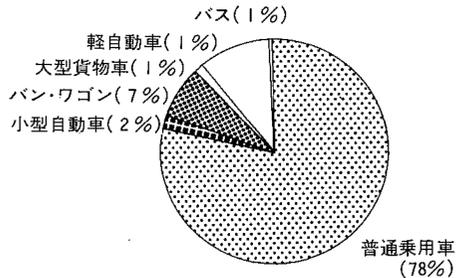


図-9 問3の結果

問4 あなたが運転している車に、冬の間スパイクタイヤをつけますか。  
 1 つける。 2 つけない。  
 いつ頃ですか。(付問) 理由  
 1 雪が降る天気予報が出たら、雪が降ってなくてもつける。 1 タイヤチェーンをつけるから。  
 2 雪が1回でも降ったらつける。 2 スノータイヤ(スパイクなし)をつけるから。  
 3 根雪になってからつける。 3 スタッドレスをつけるから。  
 4 毎年きまった時期がくると、雪がなくてもつける。 4 その他(具体的に )  
 それは 月(上中下) 旬頃である。  
 5 その他(具体的に )

スパイクタイヤをつけますか  
 つけない(3%)

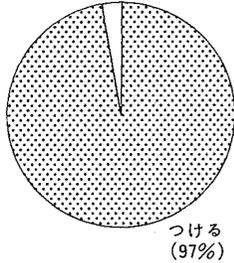
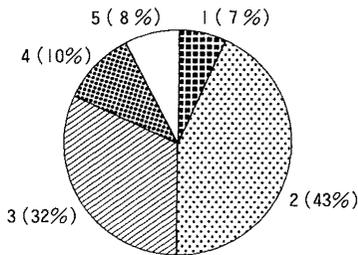


図-10 問4の結果

スパイクタイヤをつけない理由

- 1 タイヤチェーンをつけるから。 0名(0%)
- 2 スノータイヤ(スパイクなし)をつけるから。 2名(1.2%)
- 3 スタッドレスタイヤをつけるから。 2名(1.2%)
- 4 その他(具体的に) 1名(0.6%)  
(理由は不明)

いつ頃ですか(付問)



4 毎年きまった時期がくると、雪がなくてもつける。それは 月(上中下) 旬頃である。

- 11月下旬 4名(2.3%)
- 12月上旬 7名(4.1%)
- 12月中旬 3名(1.8%)
- 12月下旬 3名(1.8%)

図-11 問4(付問)の結果

表-6 内訳別の回答率(問4(付問))

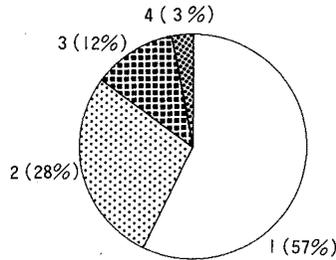
年齢層別 (%)		1	2	3	4	5
区分	回答番号					
20代以下		4	54	36	2	4
30、40代		7	35	34	14	10
50代以上		14	38	14	24	10

海岸部と内陸部 (%)		1	2	3	4	5
区分	回答番号					
海岸部		7	34	39	13	7
内陸部		6	53	26	7	8

性別 (%)		1	2	3	4	5
区分	回答番号					
男性		7	37	34	13	9
女性		7	61	25	2	5

市部と郡部 (%)		1	2	3	4	5
区分	回答番号					
市部		8	39	32	12	9
郡部		4	51	33	7	5

問5 スパイクタイヤをつける場合、春になってスパイクタイヤをはずすのはいつ頃でしょうか。次の中から1つだけお選びください。  
 1 路面の凍結がなくなったとき。  
 2 雪がすっかり消えたとき。  
 3 毎年きまった時期にはずす。それは\_\_月(上・中・下)旬頃である。  
 4 その他(具体的に )



3 毎年きまった時期にはずす。  
 それは\_\_月(上・中・下)旬頃である。

3月上旬	3名 (1.7%)
3月中旬	5名 (2.9%)
3月下旬	11名 (6.3%)
4月上旬	2名 (1.1%)

図-12 問5の結果

表-7 内訳別の回答率(問5)

年齢層別 (%)		1	2	3	4
区分	回答番号				
20代以下		69	29	1	1
30、40代		49	29	17	5
50代以上		50	18	27	5

海岸部と内陸部 (%)		1	2	3	4
区分	回答番号				
海岸部		49	33	14	4
内陸部		67	21	11	1

性別 (%)		1	2	3	4
区分	回答番号				
男性		55	27	15	3
女性		61	32	5	2

市部と郡部 (%)		1	2	3	4
区分	回答番号				
市部		53	30	13	4
郡部		64	24	11	1

問6 あなたは、冬から春にかけて道路がほこりっぽく感じることはありませんか。  
 1 多に感じる。 2 感じる。 3 感じない。

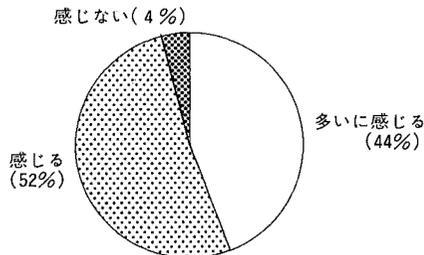


図-13 問6の結果

表一 8 内訳別の回答率 (問 6)

区分 \ 回答	多いに感じる	感じる	感じない
20代以下	48	49	3
30、40代	46	51	3
50代以上	22	71	7

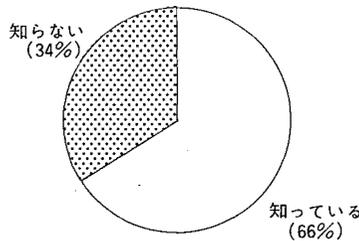
区分 \ 回答	多いに感じる	感じる	感じない
男性	45	51	4
女性	40	57	3

区分 \ 回答	多いに感じる	感じる	感じない
海岸部	51	45	4
美陸部	35	61	4

区分 \ 回答	多いに感じる	感じる	感じない
市部	48	46	6
郡部	36	63	1

区分 \ 回答	多いに感じる	感じる	感じない
運転する	45	51	4
運転しない	36	64	0

問 7. あなたは、県で決めた「スパイクタイヤ使用自粛指導要綱」をご存知ですか。  
 1 知っている。 2 知らない。



図一 14 問 7 の結果

表一 9 内訳別の回答率 (問 7)

区分 \ 回答	知っている	知らない
20代以下	45	55
30、40代	79	21
50代以上	85	15

区分 \ 回答	知っている	知らない
男性	73	27
女性	51	49

区分 \ 回答	知っている	知らない
海岸部	68	32
内陸部	65	35

区分 \ 回答	知っている	知らない
市部	65	35
郡部	68	32

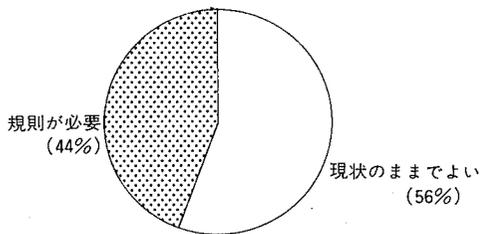
区分 \ 回答	知っている	知らない
運転する	67	33
運転しない	60	40

問8 あなたは、今後のスパイクタイヤの使用についてどのようにお考えですか。次の中からお選びください。

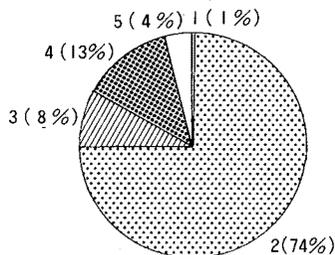
1 現状のままでよい。  
理由(付問1)  
1 粉じん公害といっても特に問題があるとは思わないから。  
2 スパイクタイヤは交通安全上必要だと思うから。  
3 スパイクタイヤに強い道路をつくればよいから。  
4 「スパイクタイヤ使用自粛指導要綱」で十分対応できるから。  
5 その他(具体的に )

2 なんらかの規制が必要である。  
理由(付問2)  
1 道路粉じんは人の健康によくないと思うから。  
2 道路がいたんで、補修のための税金がムダだから。  
3 スパイクタイヤを過信し、スピードを出し過ぎて交通事故がふえるから。  
4 その他(具体的に )

今後のスパイクタイヤの使用について

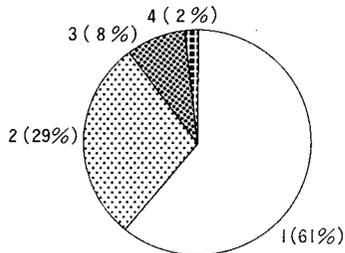


「現状のままでよい」の理由(付問1)



図一16 問8(付問1)の結果

「規制が必要」の理由(付問2)



図一17 問8(付問2)の結果

表一10 内訳別の回答率(問8)

年齢層別 (%)		
区分	回答	割合
	現状のままでよい	規制が必要
20代以下	59	41
30、40代	52	48
50代以下	63	37

性別 (%)		
区分	回答	割合
	現状のままでよい	規制が必要
男性	57	43
女性	52	48

海岸部と内陸部 (%)

区分	回答	現状のままでよい	規制が必要
海岸部		62	38
内陸部		49	51

市部と郡部 (%)

区分	回答	現状のままでよい	規制が必要
市部		58	42
郡部		53	47

車を運転する、しない (%)

区分	回答	現状のままでよい	規制が必要
運転する		61	39
運転しない		20	80

表一11 内訳別の回答率 (問8 (付問1))

区分\回答番号	1	2	3	4	5
20代以下	0	81	6	9	4
30、40代	2	76	8	12	2
50代以上	0	58	11	26	5

区分\回答番号	1	2	3	4	5
男性	1	74	5	15	5
女性	0	78	16	6	0

区分\回答番号	1	2	3	4	5
海岸部	0	73	7	14	6
内陸部	2	78	9	11	0

区分\回答番号	1	2	3	4	5
市部	0	79	8	8	5
郡部	2	69	7	22	0

区分\回答番号	1	2	3	4	5
運転する	1	75	7	13	4
運転しない	0	60	20	20	0

表一12 内訳別の回答率 (問8 (付問2))

区分\回答番号	1	2	3	4
20代以下	58	31	8	3
30、40代	57	32	9	2
50代以上	82	9	9	0

区分\回答番号	1	2	3	4
男性	58	33	9	0
女性	69	19	6	6

区分\回答番号	1	2	3	4
海岸部	53	35	10	2
内陸部	66	25	7	2

区分\回答番号	1	2	3	4
市部	57	33	10	0
郡部	65	23	7	5

区分\回答番号	1	2	3	4
運転する	58	32	8	2
運転しない	73	18	9	0

問1については、全体の88%が自動車を運転すると答えており(図-6)、特に男性は96%に達している(図-7)。

問2によると、車を運転する目的は45%が通勤・通学であり、次いでレジャーが22%である(図-8)。

問3では、運転する車の種類は78%が普通乗用車で、次は軽自動車の11%である(図-9)。

問4によると、「冬期間にスパイクタイヤをつける」と答えた人が97%と大部分であり、スパイクタイヤをつけない人のうち、「スノータイヤをつける」又は「スタッドレスタイヤをつける」と答えた人がそれぞれ1.2%しかいなかった(図-10)。また、スパイクタイヤをつける時期については、「雪が1回でも降ったらつける」と答えた人が最も多く、「スパイクタイヤをつける」と答えた人のうち43%であった(図-11)。これについて内訳別の回答率を見ると(表-6)、年齢層別では「雪が1回でも降ったらつける」と答えた人は20才代以下で高率であり54%と過半数を占めている。これに対して、50才代以上では「毎年きまった時期が来るとつける」と答えた人が他の年齢層より高率になっている。性別では雪が1回でも降ったらつける人は男性37%に対して女性が61%と非常に高率であり、男性より女性の方が雪道の運転に対してより慎重であると思われる。地域別では、海岸部より内陸部の人、また市部より郡部の人が「雪が1回でも降ったらつける」と答えた人が多かった。

問5については、「路面の凍結がなくなったときにスパイクタイヤをはずす」と答えた人が全体の57%で最も多かった(図-12)。内訳別の回答率を見ると(表-7)、年齢層別では「路面の凍結がなくなったときにははずす」と答えた人は20才代以下に最も多く、「毎年きまった時期にははずす」と答えた人は50才代以上に最も多かった。性別では「雪がすっかり消えたときにははずす」という慎重な意見は男性より女性に多かったが、スパイクタイヤをつける時期について(問4)ほど大きな差は見られなかった。また、地域別では海岸部と市部、内陸部と郡部が似た傾向を示した。

問6の「冬から春にかけて道路がほこりっぽいや感じるか」の問いに対して、「多いに感じる」が44%、「感じる」が52%で、合計96%の人がほこりっぽさを感じているが(図-13)、今回の調査からはその原因がスパイクタイヤによる道路粉じんのためと考えているかは不明である。内訳別の回答率を見ると(表-8)、年齢層別では「多いに感じる」と答えた人の割合が50才代以上が他の年齢層よりかなり低くなっている。性別では大きな差異は見られなかった。海岸部と内陸部の区別では、海岸部の方が「多いに感じる」と答えた人が高率だったがこれは降雪期間は両地域でそれほど変わらないのに対して、海岸部は降雪量が少なく、道路や周辺部が露出している期間が長く粉じんが発生しやすいためと、風が強いためそれが飛散しやすいためと考えられる。市部と郡部の区別では市部の方が「多いに感じる」と答えた人が高率であり、これは交通量に関係があるように思われるが、逆に市部には「感じない」と答えた人が6%もあり、明確な傾向は見られなかった。車を運転するか否かの区別では「多いに感じる」と答えた人の割合は運転する人の方が高かったが、運転しない人は100%の人が「多いに感じる」か「感じる」と答えており、両者の間にも明確な意識の違いは見られなかった。

問7の結果から「スパイクタイヤ使用自粛指導要綱」について全体の約3分の2の66%の人が「知っている」と答えている(図-14)。内訳別の回答率を見ると(表-9)、年齢層別では20才代以下が「知らない」と答えた率が55%と高く、他の年齢層とは明確な違いを示している。また性別では女性の49%が知らないと答えており、男性よりかなり高かった。なお20才代の女性については69%が「知らない」と答えており、今後同要綱を普及させるためには、特に若い女性ドライバーを重点に啓蒙を図る必要があると思われる。地域別では、海岸部と内陸部、市部と郡部ともほぼ同様の結果であり、地域差は見られなかった。また、運転するか否かの区別では運転する人の方が「要綱を知っている」と答えた率が高かったが、それほど大きな差異はなかった。

問8については、今後のスパイクタイヤの使用を「現状のままでよい」と答えた人が56%であり、「なんらかの規制が必要」と答えた人の率(44%)を上回った(図-15)。内訳別の回答率を見ると(表-10)、年齢層別では「現状のままでよい」と答えた率は50才代以上で最も高く、30~40才代で最も低かった。性別では男性の方が「現状のままでよい」と答えた率が高かったが、それほど大きな差はなかった。海岸部と内陸部の区別では「現状のままでよい」と答えた人の率が海岸部で62%であるのに対して、内陸部では49%と過半数を割っており、積雪量が多くスパイクタイヤをより必要とするはずの内陸部の方が「なんらかの規制が必要である」という意識の人が多かった。市部と郡部の区別では市部の方が「現状のままでよい」と答えた人が多かったが、両者にそれほど大きな差はなかった。車を運転する人としらない人ではその意識に明確な違いが見られた。即ち、車を運転する人は「現状のままでよい」という意見が61%だったのに対して、運転しない人ではわずか20%であり、スパイクタイヤの必要性についてよりきびしい考え方を持っていることが認められた。

次に「現状のままでよい」と答えた理由については、「スパイクタイヤは交通安全上必要だと思うから」と答えた人が全体の74%であり、「粉じん公害といっても特に問題があるとは思わないから」と答えた人はわずか1%しかいなかった(図-16)。これについて内訳別の回答率を見ると(表-11)、年齢層別では50才代以上では「スパイクタイヤは交通安全上必要だと思うから」という意見は他の年齢層に比べて少なかった。それに対して「スパイクタイヤ使用自粛指導要綱」で十分対応できるから」と答えた人の割合が比較的多かった。これは、問7の結果が示すように50才代以上の人が同要綱を最もよく知っており、同要綱に従ってスパイクタイヤを適切に使用すればスパイクタイヤに関する諸問題は軽減されると考えているためと思われる。また、運転する人としらない人の区別では、実際に車を運転する人の方が「交通安全上必要だと思う」という意見が多かった。なお、性別、地域別の区別ではそれほど大きな差異はなかった。

また「なんらかの規制が必要である」と答えた理由についての調査結果は図-17のようになり、全体の61%の人が「道路粉じんは人の健康によくないと思うから」と答えており、「道路がいたんで補修のための税金がムダだから」と答えた人の割合(29%)の2倍以上であった。このことから、多くの人が冬から春にかけて発生する道路粉じんはスパイクタイヤに起因すると考えていることが類推され、またスパイクタイヤに関する諸問題のうち、道路補修費等の問題よりも人体への影

響について深刻に憂慮していると言える。内訳別の回答率を見ると(表-12)、年齢層別では「人の健康によくないと思うから」と答えた人は50才代以上に多く、日頃の健康への関心の深さと関連していると思われる。性別、地域別ではそれほど大きな差は認められなかった。車を運転する人としらない人の区別では「人の健康によくないと思うから」と答えた人は車の運転をしない人に多く、実際に道路を歩く機会の多い人の方が道路粉じんの人体への影響について憂慮していることがわかる。

#### 4 ま と め

##### 4-1 浮遊粉じん濃度

- (1) 昭和61年度は降雪量が少なかったため、1月に浮遊粉じん濃度の減少がほとんどなかった。
- (2) 12月、1月、3月の値は10月の値に比べて概ね2~3倍の濃度であった。

##### 4-2 浮遊粒子状物質濃度

- (1) 浮遊粉じん濃度と同様に、1月に濃度の減少がほとんどなかった。
- (2) 12月、1月、3月の八橋(0m)地点の濃度は八橋(50m)地点の濃度の約2倍であった。

##### 4-3 スパイクタイヤに関する意識調査

- (1) 冬期間、車にスパイクタイヤを装着する人は全体の97%であり、スタッドレスタイヤを装着する人は1.2%であった。
- (2) スパイクタイヤを装着する時期は、43%の人が「雪が1回でも降ったらつける」と答えた。
- (3) スパイクタイヤをはずす時期は、57%の人が「路面の凍結がなくなったとき」と答えた。
- (4) 冬から春にかけて道路がほこりっぽいと感じる人は、「多いに感じる」と答えた人を含めて96%であった。
- (5) 「スパイクタイヤ使用自粛指導要綱」を知っている人は全体の66%であった。内訳では50才代以上の人が85%と知っている率が高く、逆に20才代の女性が低くわずか31%であった。
- (6) 今後のスパイクタイヤの使用については、56%の人が「現状のままでよい」と答えており、「なんらかの規制が必要である」と答えた人は44%であった。ただし車を運転しない人では80%の人が「なんらかの規制が必要である」と答えた。また「現状のままでよい」と答えた理由については74%の人が「スパイクタイヤは交通安全上必要だと思うから」と答えており、「なんらかの規制が必要である」と答えた理由については61%の人が「道路粉じんは人の健康によくないと思うから」と答えた。